

介護人材の確保について

2018年1月30日

兵庫県立大学大学院経営研究科

客員教授

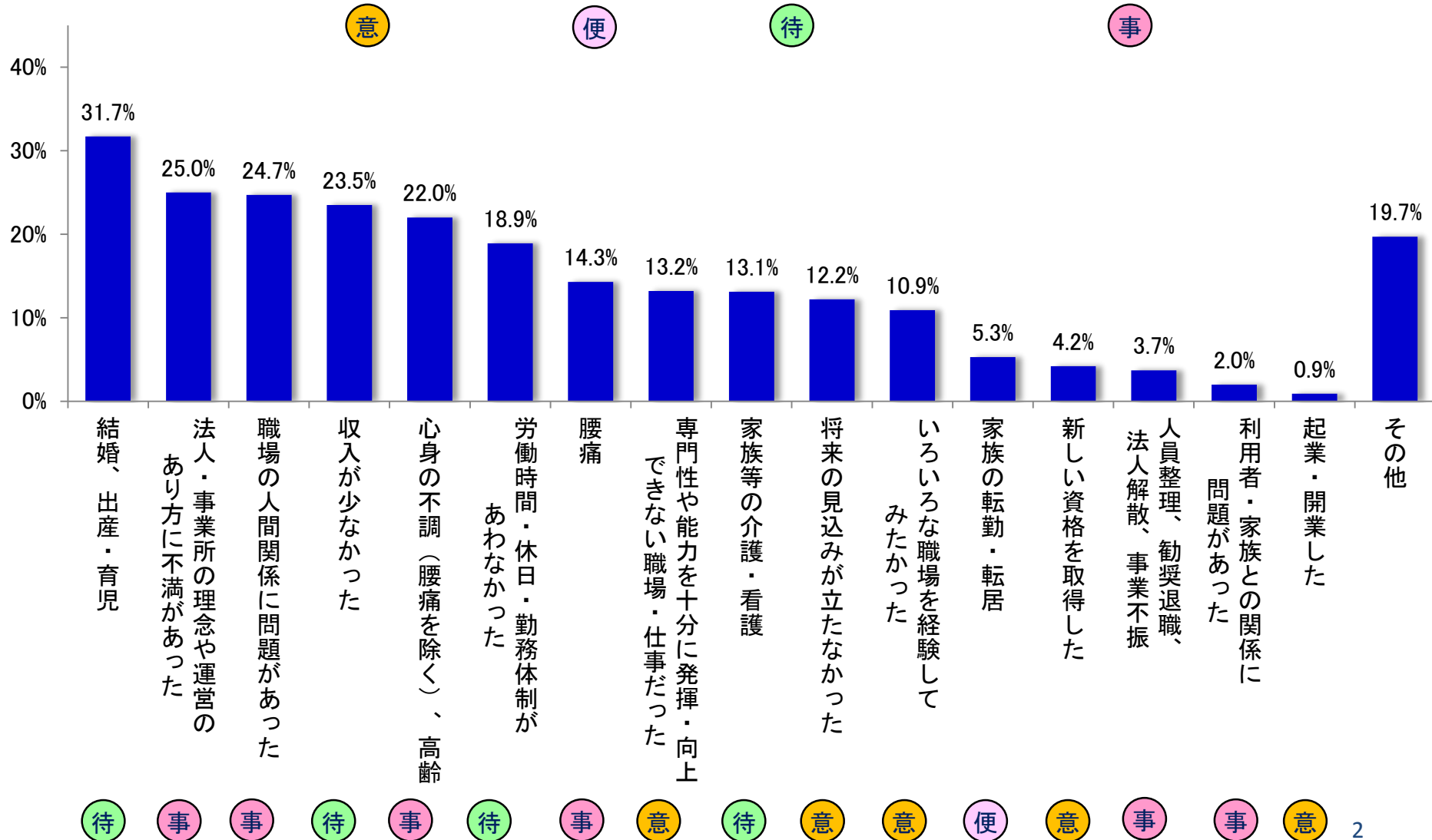
元厚生労働省社会・援護局長

岡田 太造

過去働いていた職場を辞めた理由(介護福祉士:複数回答)

○ 離職時には、結婚・子育てや、職場の方針や人間関係などの用管理のあり方がきっかけとなっている。

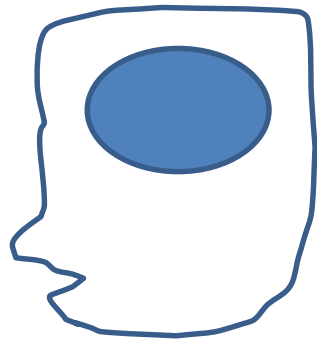
回答の分類: 個人の意識・意欲、 便利さ、 待遇・労働環境、 事業所・経営者のマネジメント



介護の仕事の今

- 高齢者施設における虐待事例から考える
 - 経営者、施設管理者が適切に管理しているのか？
 - 何故、虐待が起こるのか？
 - 例えば、認知症の人のケアをどう考えるか？
- 「介護」という仕事をどう考えるか？
 - 「3Kの仕事」 vs 「質の高い仕事」
 - 人に感謝される仕事＝やり甲斐のある仕事

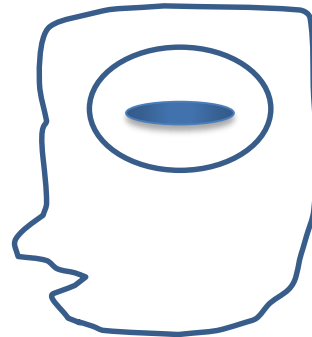
認知症の方をどう捉えるかで、ケアの質が大きく変わる！！



脳全体が機能低下



問題行動の抑制に苦慮



脳の一部が機能低下、それ以外は正常



本人の気持ちに寄添う支援が重要

脳の一部に機能低下



自覚することによる不安感、他人に知られることの恐怖、他者からの接し方への不満等

正常な脳の正常な働き



防御行動→「問題行動」

- 利用者をよく観察し、その感情を理解することができる
- 利用者の気持ちに共感できる

介護の仕事の将来

- ICT、AI等技術は仕事の内容を大きく変える
 - 利用者を観察し、気持ちに寄り添う「介護の仕事」はロボットに代替されない
 - 介護の仕事の質が客観的に評価可能に
- 2025年に向け、量だけでなく、質も大きく変わる介護サービス
 - 家族が決めるサービスではなく、本人が選ぶサービスへ
- 生き残れる介護事業者は？
 - 高齢者本人のニーズに応え、質の高いサービスを提供できるか
 - 地域で信頼され、必要とされているか

人材確保に必要なこと

- 介護事業者に求められるもの
 - 適切な雇用管理
 - 介護サービスの質の向上
 - 地域に開かれ、地域に貢献できる事業者へ
- 質の高い介護サービスは3Kではない
 - 利用者との信頼関係の確立が何より重要
 - 「すべてをしてあげる」から「できることを促し、できなことだけを支える」へ
 - 利用者とのコミュニケーション、利用者の状況のアセスメントが重要
 - 介護の現場での取り組みが3Kイメージを払拭